

新型コロナウイルスワクチン接種時期および分娩時のマスク着用に関するお知らせ

2021年7月1日

聖母病院産婦人科

現在、産婦人科外来では新型コロナウイルスワクチン接種時期、および分娩時のマスク着用について多数の問い合わせをいただいております。以下に当院の対応をまとめましたので、ご一読ください。

1. 妊娠中の新型コロナウイルスワクチン接種の時期について

ワクチン接種から手術までの期間が短い場合、術後の一時的免疫機能低下により抗体が十分に作られない可能性があります。また、ワクチン接種による発熱などの副反応と術後合併症との鑑別が困難になることも考えられます。そのため、一般に手術前後には一定期間あけてからワクチン接種を実施することが推奨されております。当院では、各学術団体の意見を参考に、手術前・後の2週間は新型コロナウイルスワクチン接種を控えることが望ましいと考えております。

経膈分娩予定の方も分娩経過によっては帝王切開術が必要となります。新型コロナウイルスワクチン接種をお受けになる場合は、原則として妊娠35週ごろまでに2回目の接種を完了できるようにスケジュールを組んでください。

2. 分娩中のマスク着用について

厚生労働省のウェブサイト以下のような情報があることから、マスク着用についての問い合わせが増えております。

問:分娩時に妊婦がマスクをすることは必須なのですか。

医療機関において適切に感染予防対策がなされている場合や妊婦の状況によっては、分娩時にマスクをすることは必須ではありません。ただし、医療機関の施設設備の状況・職員のワクチン接種状況や地域の流行状況などによっては、妊婦ご本人ならびに周囲の妊婦の皆様を守るためマスク着用が必要な場合がありますので、主治医とご相談ください。

厚生労働省ウェブサイト:新型コロナウイルス感染症『新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)』より

ご存知のように、無症状の場合、新型コロナウイルスに感染していないことの確認は容易ではありません。例えば、陣痛発来などにて緊急入院された産婦さん全員に遅滞なくPCR検査を行うことは実際上困難です。また、最近では、感染力の強い変異株の拡大も指摘されており、ご本人が気づかないうちに感染している可能性もあります。

当院では、産科診療にかかわる医療者は、マスクおよびアイシールド着用などによる感染予防を徹底しております。しかしながら、分娩時には産婦さんの呼吸が荒くなりやすいため、長時間にわたり産婦さんに接してケアをする助産師は飛沫暴露を受けやすい状況下にあります。このような理由から、当院では院内感染防止対策として、分娩中の産婦さんにマスクの着用をお願いしております。感染予防策は施設ごとに異なる可能性がありますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

*感染防御効果に優れた不織布製マスクが望ましいとされますが、布マスクでも構いません。また、分娩時にマスク着用によって苦痛を感じる場合は、遠慮なく助産師にお申し出ください。